

Imagine まちの未来

～生まれ変わるJR守山駅東口、一体どうなる～

JR守山駅(以下、守山駅)周辺は、本市の玄関口として、多様な都市機能の集積や文化・交流・にぎわいの核となる中心
 そうした中、守山駅東口において、令和8年5月に予定されている株式会社村田製作所の研究開発拠点施設「守山イノベー
 大きく変化する見込みです。市では、この動きを契機として、守山駅東口の低未利用地を活用した新たな都市機能の集積や東
 整備を図ることを検討しています。

今年度末の策定に向けて取り組んでいる「守山駅東口再整備基本計画」の内容を含め、現在検討中の守山駅東口再整備に関す

拠点の形成が求められています。
 ションセンター」の竣工により、守山駅東口周辺が
 ロータリーの再編などを実施し、守山駅東口の再

る情報を複数回に分けて、定期的に掲載しています。

第2回：JR守山駅東口が抱える課題

連載内容(予定を含む)
 守山駅東口再整備に関する定期連載の内容は、以下のとおりです。

第1回(8月15日号)	JR守山駅東口の現状
第3回(10月15日号)	コンセプトおよびビジョン
第4回(11月15日号)	導入を検討する機能
第5回(12月15日号)	ゾーニングとイメージパース

関都市計画・交通政策課 ☎・☎(582)1132 ☎(582)6947



交通事業者ヒアリング

実施時期 令和5年10月27日(金)、11月1日(水)
 対象事業者 バス事業者(1社)および交通事業者(2社)

- ・朝夕の慢性的な交通渋滞を受け、守山駅周辺の交通環境の改善が求められている。
- ・守山駅東口の再整備に当たっては、基本的に現状の交通機能を確保し、より利用者ファーストの視点で考えていく必要がある。

守山駅東口が抱える課題

市民の皆さまなどからの意見聴取の結果などを踏まえ、守山駅東口が抱える課題を整理しました。

土地利用および都市機能

- ・西口に比べて利用者が少ないため、にぎわいや活気が少なく、全体的に雰囲気が暗い。
- ・カフェなどの飲食店が少なく、市民や駅利用者などが利用したいと思う施設が少ない。
- ・多世代が集える、居心地が良く快適に過ごすことができる空間(広場)が少ない。

交通施設

- ・朝夕の通勤・通学の時間帯は、ロータリーでの駐停車が多く通行の妨げになっている。
- ・一般車両の乗降場や駐車場を希望する意見は多いものの、西口に比べると、駅前広場での乗り降りや通行はしやすい。

東西の移動

- ・駅の自由通路は、幅員が狭く、ロータリーからのアクセスが不便となっている。
- ・地下道は、老朽化が進むとともに、狭隘なイメージがあり、快適性が不足している。
- ・東西をまたぐ道路は、頻繁に交通渋滞が発生しており、自動車利用による東西の行き来の利便性が低くなっている。

【課題1】

西口との連携をふまえた
 魅力やにぎわいの向上に
 寄与する都市機能の導入

【課題2】

交通利便性の向上に向け
 た駅前広場(ロータリー)
 の再整備

【課題3】

東西の移動における利便
 性・快適性の向上

市民の皆さまなどからの意見聴取の結果

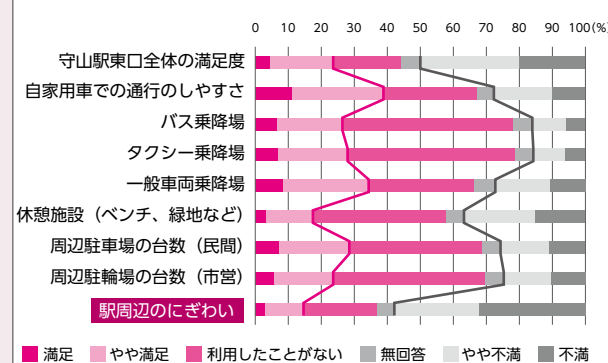
守山駅東口周辺の現状に対する意見や評価、要望などを把握するために、市民や駅利用者、近隣住民、交通事業
 者に対して、意見聴取を行いました。

アンケート調査

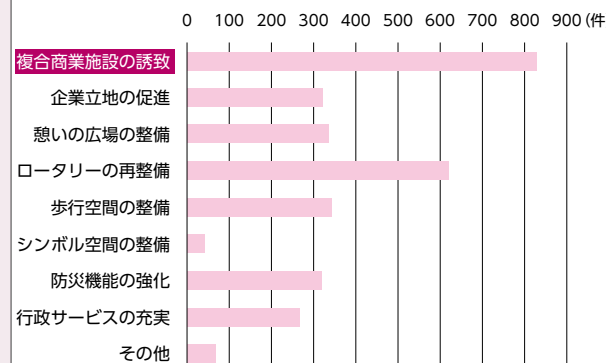
調査期間 令和5年9月15日(金)～30日(土)
 調査方法 紙面およびWEBアンケート
 対象者 市民2,000人(無作為抽出)、駅利用者2,100人
 回答者数 1,205件(紙面アンケート532件、WEBアンケート673件)



東口に対する満足度



東口再整備に向けて優先して取り組むべき事項



- ・現在の守山駅東口については、「駅周辺のにぎわい」に対する満足度が低く、駅周辺のにぎわいや活力が求められている。
- ・守山駅東口の再整備に当たっては、身近な買い物や飲食が楽しめる「複合商業施設の誘致」が求められている。

ワークショップ

開催日時 令和5年10月21日(土)午後2時～5時
 開催場所 市役所 2階 防災会議室
 参加者数 35人(守山駅東口周辺自治会の住民)



- ・東口と西口の役割を分担し、西口は「にぎわい空間」として、東口は今まで通り「落ち着いた空間」として形成することが求められている。
- ・東口は、多世代が集うことができる居心地の良い空間(サードプレイス)として形成することが求められている。